

軟式野球ボールの新意匠(次世代ボール)について

平成28年12月8日
トップインターナショナル株式会社

平成28年12月1日に公益財団法人全日本軟式野球連盟と野球ボール工業会は、軟式野球ボール100年の歴史を塗り替える革新的なボール『次世代野球ボール』を開発したことを発表致しました。

※詳細については、配付された「記者会見資料」より、抜粋したものを踏まえて、下記の通りお知らせ致します。

※以下、記者会見資料より抜粋

■軟式野球の位置付けと軟式ボール

- ①軟式ボールを使用して、野球を国民全般に普及し、その健全な発展を助成振興し、さらに世界に野球を普及啓発できるべく、人材育成を図り国民体力の向上及びスポーツマンシップの浸透を図ること。
- ②軟式野球は、その特性を生かし青少年の体力の向上、他者を尊重し共同・協力の精神、公正さを育む人格の形成と変貌する時代とグローバルな社会に対応出来る人材を育成することを目的とする。
- ③軟式ボールは安価で安心して、だれでも、いつでも、どこでも楽しむことができる。

※以下、記者会見資料より抜粋

■軟式ボールの変遷

- ①初代(昭和13年～昭和25年) 12年間 菊型健康ボールとして、全国統一ボール
- ②2代目(昭和26年～昭和34年) 9年間 金型技術革新により縫い目のできたボール
- ③3代目(昭和35年～昭和43年) 9年間 丸ディンプルの間に星を入れたボール
- ④4代目(昭和44年～昭和59年) 16年間 丸ディンプルの中にJSBBを入れたボール
- ⑤5代目(昭和60年～平成17年) 20年間 ゴム質を変えて飛ぶようにしたボール・楕円のディンプル
- ⑥6代目(平成17年～ 現代) 縫い目を丸みをおびた形・ディンプルも小円を構成するデザイン

※以下、記者会見資料より抜粋

■軟式野球の時代変貌

- ①野球に対する戦略的多様性と競技へのこだわり(低バウンドのボール)
- ②用具・防具の安全性と進化(耐久性が良い)
- ③小学・中学生に係る昭和26年と現在の平均身長と体重の推移は、次のとおり

別	身長		体重	
	伸び	増減	増	増
小学生	13.2cm	9.1%up	9.4kg	24.6%up
中学生	16.9cm	10.1%up	14.2kg	26.1%up

※以下、記者会見資料より抜粋

■新ボールの基本コンセプト

※軟式ボールの安全性を軸に、時代の変貌に柔軟に対応し、軟式野球競技者・愛好者が各ステージにおいて軟式・硬式の相互移行を図りやすくし野球文化の維持・拡大に寄与する。

※以下、記者会見資料より抜粋

■新ボールの呼称

「M号(メジャー) と J号(ジュニア) とする」

※以下、記者会見資料より抜粋

■ボールの規格値の変更

現行ボール規格値					新ボール規格値				
呼称	大きさ	重さ	反発高さ	圧縮荷重	呼称	大きさ	重さ	反発高さ	圧縮荷重
A号	72±0.5mm	136±1.8g	95±10cm	26~30kgf	M号	72±0.5mm	136±1.8g	80±10cm	36~40kgf
B号	70±0.5mm	135±1.8g	90±10cm	30~33kgf	J号	69±0.5mm	129±1.8g	70±10cm	27~31kgf
C号	68±0.5mm	128±1.8g	75±10cm	22~31kgf					

■ボールの意匠変更

※以下、記者会見資料より抜粋

- ①バウンドを下げると飛ばなくなるが、新意匠の効果と圧縮荷重を上げ(硬くして)変形エネルギーを抑えることで飛距離をのばす
- ②新意匠効果のポイント(飛行性能に優れる意匠開発)
 - ・ポイントⅠ 縫い目の形状と数の変更(硬式と同じ入りの字を採用・88個から92個)
 - ・ポイントⅡ 全表面積に対してディンプル面積占有率の変更(70.2%から80.1%)
 - ・ポイントⅢ 消耗度合を判断するスリップマークを採用

※以下、記者会見資料より抜粋

■新ボールのフィールドテストに対する結果

対象	現行球との比較	テスト結果
中学生	投手	優れている
	野手	同等以上
	打者	同等以上
一般	投手	優れている
	野手	同等以上
	打者	同等以上

※以下、記者会見資料より抜粋

■新ボールの競技効果と社会的効果

区別	発現効果
競技的	限りなく野球の基本的投球方法・守備体制・打撃姿勢が一元化する効果がある。
社会的	国際大会、世界への野球普及(安全・安価・施設利便)推進等につながる。

※新意匠(次世代ボール) M号



■使用開始の時期の予定について

宗像専務理事談より…『使用開始日についてはM号は平成30年の全国大会から、J号については翌年から使用をしたいが、あくまでも私の希望であり、これから理事会・役員会で決を採る事になります。』

■発売時期・価格の予定について(トッパーボール)

	発売予定	販売価格予定
M号	平成29年(2017年)12月頃予定	現行A号球同等及びそれ以上予定
J号	平成30年(2018年)後半頃予定	現行C号球同等及びそれ以上予定

■使用用具等について(グラブ・バット・レガース・マスク等)

関係検査機関の検査結果により、現行品(軟式野球用品)同等で問題がないとの回答を頂いております。